

# 最高益を挙げた JAL は 解雇者を即刻職場に戻せ！！

## — 5月13日 JAL 本社包囲大行動 —



支える会通信

発行責任者  
 柚木康子  
 大田区羽田  
 4-10-4  
 石井ビル3階  
 TEL03 (6423) 7878  
 FAX03 (6423) 7430  
 メール  
 sasaerukai@  
 lemon.plala.  
 or.jp

16春闘で CCU、乗

員、機長の三組合は JAL に対し、ILO から解決に向けて意義ある交渉を行うようにという第三次勧告が出されている事も踏まえて解雇争議解決交渉を開始するように求めましたが、JAL は決断しませんでした。

こうした状況を打破すべく5月13日に五〇〇名を超える人々で JAL に対し抗議宣伝要請行動を行いました。

支援共闘代表として金澤全労協議長、糸谷全国港湾委員長、支援団体から国労本部・坂口委員長、JMI・大岡委員長、全労連・井上事務局長がそれぞれ「労働法制改悪許さず、安倍政権打倒のそりがかり行動の一環として、JAL の解雇自由・

組合潰しを許さない JAL 争議を闘う」、「ここに集まっている人は JAL の利用者でもある、JAL は現状を危機的に受け止め、チーム日航として一致できるよう解決すべき」、「潮目は変わっている。裁判に負けても闘いは変わらない。団結してスクラム組んで追い込もう」、「まじめに働く者が何故解雇されなければならぬかと頭にきてみな集まっている。このままでは JAL は社会的信用を失うことを認識すべきだ。」等と挨拶しました。

争議団が所属する組合からは「パイロットも客室乗務員もヘトヘトだ。高収益は犠牲の上の利益だ。社内でも解決すべきとの声が出ている。内外からの圧力を高めてみんなを戻したい!」、争議団代表からは「隔離法廷問題で寺田最高裁判長

が謝罪したように最高裁でも過ちある。」  
 「解雇以降職場は安全に影響をおよぼす環境となっている。解雇は選別の究極、不当解雇撤回原職復帰めざして頑張る。」  
 「史上最高の利益をあげた JAL。本業に徹すれば破綻しなかつたことを証明している。その利益は現役の労働条件向上と解雇者全員を職場に戻すことにも使わべき。争議解決協議の扉を開ける決断を!」と訴えました。

中小では未だ春闘真っ最中という忙しい中ですが、多くの労組・団体からの参加があり、さまざまな職旗が怒りにはためく JAL 本社前でした。



# JAL本社前座り込み行動に 650名の参加!

3月7日〜11日、JAL本社が入る野村ビルに続く通路で連日座り込み行動を行いました。通路は風が強く吹き抜け、晴れ間が出たのは1日のみで雨も降る悪天候でしたが、春闘最中であるにも拘わらず連日多数の参加がありました。所属を超えた労組・団体の幟旗が多数翻る通路で各支援者



寒風や雨天でも650名の参加がありました

からの連帯挨拶が行われ、最終日には6度まで下がる寒さとなりましたが通路は両側に参加者で埋め尽くされました。通行人へのアピール度も高く、10日は社長出席の経営協議会が開催され、JAL本社に対し解雇問題を解決しろとの意志を伝えることができました。連日警備員が行動中止を求めに来ましたが、毅然と行動を完遂し参加人数はのべで650名を超えました。

ですよ！いい加減に解決しないといけません。ILOもいい勧告を出してくれています。『いつ解決するの？今でしょ！』”なので、出来るだけ解雇撤回の取り組みに参加しようと思っていましたら、なんと座り込みの日程がピタリ休日だったので、ラッキーでした！羽田の組合事務所番をした日も、本社前集会があり、参加することができましたが、本当に多くの人が集まって支援してくださるので、感動しました。

サンディエゴへのフライトの後の4日の休日はすべて座り込みに行きました。天王洲アイルへは小一時間かかりましたし、時差で夜中から起きている日もありましたが、一致団結して問題を解決しようとする人たちが集まっているこの雰囲気。疲れるどころかストレス解消になりました。

私は当該労組の組合員

ですから、活動するのは当然ですが、社外の方々から私たちが問題を自分ごとのように捉えて活動してくださっているの、本当に頭が下がる

思いです。こういうひとつひとつの活動の積み重ねが会社を追い込み、解決に向かわせるのだと思います。

## 今後の取組み

- 6月 1日 10:30 ~ JALプラザ前宣伝行動 (JAL三争議共催) ( ~ 11:30 )
  - 12:00 ~ JALプラザ前座り込み行動 ( ~ 13:00 )
  - 2日 11:00 ~ JALプラザ前座り込み行動 ( ~ 13:00 )
  - 3日 11:00 ~ JALプラザ前座り込み行動 ( ~ 13:00 )
  - 9日 18:00 ~ JAL本社宣伝要請行動 ( ~ 19:00 )
  - 17日 9:40 ~ 国交省前宣伝要請行動 (けんり総行動) ( ~ 10:00 )
  - 22日 9:00 ~ JAL株主総会宣伝行動 (舞浜アソシアター) ( ~ 10:00 )
  - 25日 11:00 ~ 伊丹空港宣伝、
  - 29日 18:00 ~ JALDAY一斉宣伝行動、立川駅北口、高田馬場早稲田口、品川港南口、池袋東口、錦糸町駅北口、小倉駅前宣伝有楽町マリオン前
  - 18:30 ~ 福岡空港宣伝、18時 ~ 博多駅筑紫口宣伝。
  - 7月 6日 10:30 ~ JALプラザ前宣伝行動 (JAL三争議主催) ( ~ 11:30 )
  - 14日 18:00 ~ JAL本社宣伝要請行動 ( ~ 19:00 )
  - 29日 18:00 ~ JALDAY一斉宣伝行動、立川駅北口、高田馬場早稲田口、品川港南口、池袋東口、錦糸町駅北口
  - 18:30 ~ 有楽町マリオン前
- JALプラザはJR有楽町駅前 日比谷口直ぐ。

# 全国港湾的取り組み

支える会代表 市康太郎 (全国港湾書記長)

「自業自得だ……」や、「頑張ってくたさい……」の声を聞きながら品川駅で毎月のピラマキと本社行動を単組動員で取り組んでいます。

全国港湾的には、イベント方式（大会や集会でのカンパ活動）はウエルカムでも、継続した取り組みは苦手のようです。

支える会名簿一覧を見ると、組合単位（支部・分会）の加盟は1年限りが大半で、継続組合は十にも満たない。担当の非力を反省しています。

全国港湾は大会で招待する友誼団体（組合）は港運同盟と海員組合（いずれも連合加盟）しかありませんでした。

しかし、有事法制反対（関連法案は2003年成立）のたたかいで、陸海空港湾労組20団体に参

加してから国民的諸課題に取り組み（こと）を通じて、

諸団体との交流、取り組みが強まりました。残念ながら、ITFのPOC・FOCキャンペーン運動の意見の違いから、現在は断絶状態であります。

政治的課題は、各単産が夫々の立場で諸課題に積極的取り組みでありますが、全国港湾的には、ここ数年で、取り組みの幅が広がりました。

さて、日航不当解雇事件は、まさに行政（国）と裁判所、日航がグルになった解雇事件であり、組合潰しが目的であることは明白であります。

この日航の不当解雇撤回は、全労働者と労働組合に対する攻撃であり、許すわけにはいきません。CCUとはITF（国際運輸労連）にとも加盟

## 現代企業の三悪人・・・アメーバ経営方式で世界の空が危険！

稲盛和夫さんの経営「哲学」とは

<稲盛和夫さんの真の構想> 稲盛氏は盛和塾なる信者組織を作らせ自ら塾頭として、世界中に支部を作って世界大会まで開催する。自ら「JALフィロソフィーを皆のバイブルとしてきちんと見ていきましょうね」（『JAL再生』引頭麻美著、日経新聞社、86頁）と語る。敬虔なキリスト教徒にははなはだ迷惑な話だが、私が「カルトだ」「新興宗教だ」と言っているのではなく、「バイブル」と自称している。

精神科医の斎藤環氏はヤンキーはサッカー好きという（『ヤンキーと精神分析』斎藤著、12年、角川書店）。サッカーJリーグ発足と同時に、暴走族が全国的に壊滅したという。私は昨年6月京セラ株主総会で、原稿三行読み上げただけで京セラ社員たちに羽交い絞めされ退出させられた。が、続いて「会社事業説明会」があり、追い出された廊下でテレビを見ていたら、ある株主から「（京セラが全面支援している）パープルサンガどうにかならんのか（負けてばかりということ）！一生懸命やってんのは名誉会長（稲盛和夫）だけちゃうか！他の役員ももう少しまじめに応援せい！！」との発言。JAL争議団員の株主には正式総会が終わっても、「会社事業と関係ないことは困る。長い」とか言っておきながら、こういう発言は野放しだった。パープルサンガ命が稲盛和夫氏の真骨頂。

斎藤環氏は天皇好きにヤンキー好きが多いと言う（前掲著）。「経営の神様」で飽き足らず、こともあろうに稲盛は「京都再生」を口実に、天皇を京都に呼び戻そうとしているのである（土方前掲書、京都労金谷内口浩二理事長<当時>インタビュー）。そのための伏線としての一人五千万円も授与する京都賞であった（単に稲盛の相続税対策の稲盛財団設立ということだけではなく）。

鎌田氏は前掲書で言う。「造船不況の中からたちあられた『前近代のモンスター』ともいえる坪内式乗っ取りと労働者支配は・・・あまりにも急速な拡大によって自滅の方向にある。坪内が侵入した佐世保重工での同盟系労組の長期スト、自殺者と労災事故の多発は彼の自滅の前兆でもあった」と。JAL闘争団と闘う労組、全国の支援共闘・支える会の闘いのうねりが今や、稲盛和夫の自滅の前兆を示しつつある。

稲村守：JAL闘争の勝利をめざす京都共闘会議事務局次長

している立場から、解雇争議には積極的に係わってききました。

国民支援共闘の共同代表でもある糸谷委員長は、

「解雇は絶対許せん！」

の立場から、支援共闘の活動に積極的に参加し、

組織内でもその先頭に立つて奮闘しているところで

す。

一日も早い争議解決をめざして微力ですが、全国港湾として活動に取り

組んでまいります。

# 解雇撤回し、空の安全守り、

## 賃金・労働条件向上する日航へ

原告団がOBと懇談会

日本航空不当解雇撤回原告団は、3月4日夜、横浜市で「安全問題を追及し、職場の労働条件向上を勝ち取り、この闘いを勝利するために奮闘する」と民航労連OBの会と話し合いをしました。

日本航空ユニオン成田支部の菊田淳司支部長は、整備の安全に対するコスト削減や人件費削減で現場は疲弊し、給料の高い航空会社へ人材が流出している、と会社の政策を批判。同労組の斉藤啓一中央執行委員長は、解雇問題については職場問題と合わせて職場の人たちに宣伝しているが、もっと「支える会」を増やすと決意を込めました。

オプザイブでかけた元ノースウエスト

航空（NW）労組の濱嶋斌委員長と元オランダ航空（KLM）労組の山下茂久書記長は、「海外の航空労働者からは、JALの解雇は『指名解雇』だと指摘されている。ILOの3次にわたる勧告など大いに活用して、何としても解雇を撤回させたい。」と強調しました。

丸山巖・元機長組合

委員長は、「整理解雇では『人員削減目標を超過達成していた』ことを中心に。また、安全問題では『昨今のエンジントラブル頻発』を追及して職場を盛り上げ、経営を追いこんでゆけば勝利できる。」と呼びかけ、若月司郎・元日航労組委員長は、「この解雇の背景を見ても明らかのように、もっと国土交通省攻めをすべき。」と訴えました。

西村正秀・元民航労連議長は、「OBの会としても会員の更新と会員増のために、さらに取り組みを強化したい。」と表明。

杉山陽子・客室乗務員副団長は、「こうしてOBの皆さんが私たちの運動を支えてくれているのは、航空以外では聞いたことがない。本当にありがとうございます。」とお礼を述べ、斉藤晃・乗員副団長と共に「何としても解雇撤回を勝ち取りますので、今後ともよろしくお願い致します。」と力強くあいさつしました。

# 全国のメーデーに参加

## 22か所にのべ55名の争議団！

メーデーが全国各地で行われ、JAL争議団は22か所のメーデーにのべ55名が参加しました。

今年も東京の中央メーデーには、日比谷メーデー

実行委員会から全労協の中岡事務局長が、日比谷メーデーには全労連の上事務局長が連帯の挨拶を行うという画期的な取り組みが行われました。又、新潟では、統一メーデー「総がかりメーデー」が実現しました。各地のメーデー会場で争議団は支援の訴え、物販・署名などを行い、参加者にアピールすることができました。

「JALは解雇した165名を職場に戻せ！」など解雇問題のシュプレヒコールも入れていただきました。

争議団が参加したメーデーは、新潟総がかり、熊谷、三多摩、中央、日比谷、千葉県中央、柏、松戸、八千代、市原地区、船橋、横浜港、横浜、反町、相模原、兵庫県中央、大阪、大阪中之島、全京都統一大会、鳥取集会、愛媛中央、北九州の各メーデーです。御協力いただきました全国の皆さま本当に有難うございました！

